# 校長室の小窓から・・・

－No.16－　令和８年 11 月 20 日（金）　金光八尾中学校高等学校　校長　松井 祥一

## 「まさか」に備える言葉の力

11 月 18 日、大阪市西区にある金光教玉水教会において、関西金光学園創立 100 周年記念祭典が執り行われました。1926 年に私立静徳高等女学校として創立され、その後、「浪花高等女学校」「浪花金光学園」を経て、1994 年に現在の「関西金光学園」へと名称が変更されました。100 年という大きな節目を迎えられたことに感謝するとともに、金光八尾中学校・高等学校も 50 周年、そして 100 周年という未来を見据え、「人づくりの学園」として、世の中のお役に立つ人材の育成に邁進してまいります。

前号で「チクチク言葉」「ふわふわ言葉」について述べたように、「人づくり」において「言葉」は、人の心や思考、人間関係を形づくる重要な要素です。だからこそ、言葉には嘘や偽りがあってはならないと思います。政府広報オンラインに「偽・誤情報の可能性『まさか』で疑え」という記事が掲載されていました。私は「まさか」と聞くと、「人生には三つの坂がある。上り坂、下り坂、そして『まさか』」という言葉を思い浮かべます。この記事では、フェイク情報への対策として、「ま・さ・か」の三つの行動が大切だと紹介されています。

〔ま〕「待つ」―― 慌てずに少し立ち止まり、AI が作った画像や動画などに不自然な点がないか、冷静に見極めることです。

〔さ〕「探す」―― 情報の中に出てくる気になる言葉を検索したり、テレビや新聞のニュースサイトではどのように報じられているかを調べたりすることです。

〔か〕「確認する」―誰が発信した情報なのか、本当に正しい情報なのか、信頼できる発信元の情報と照らし合わせて確かめることです。

子どもたち同士のやり取りを聞いていますと、偽・誤情報のリスクは、SNS などインターネット上だけにあるわけではありません。日常会話の何気ないやり取りの中にも、思いがけない落とし穴が潜んでいます。驚きや不安、怒りを感じたときこそ、すぐに信じたり、誰かに伝えたりするのではなく、人生の三つ目の坂である「まさか」に備えるように、「待つ」「探す」「確認する」という行動を心がけたいものです。

